

みんなを守る美しい環境

白石川河川敷清掃

一目千本桜を見物に訪れる皆さんを気持ちよく迎えるため、3月15日、白石川河川敷や大河原駅前広場などで一斉清掃が行われました。

曇り空の下、肌寒いなかでの作業開始となりましたが、白石川沿いの各会場には多くの町民ボランティアの皆さんが集まり、捨てられた空き缶やペットボトルなどのごみ拾い、落ち葉の清掃などを行いました。その熱意が通じたのか、やがて天気が回復して気温も上がり、参加者のなかには額の汗を拭いながらの作業となったかたもいたようです。

この日は大河原ライオンズクラブの皆さんが恒例の植樹を行い、「ソメイヨシノ」の苗木2本を新たに植えました。



天気も良く、作業も大いにはかとりました

毎年植樹を続けている大河原ライオンズクラブの皆さん



大人に負けずに働く子どもたちの姿も

緊急時の生命線として

ヤマト運輸株式会社・宮城県トラック協会仙南支部と災害時の緊急物資輸送について協定締結

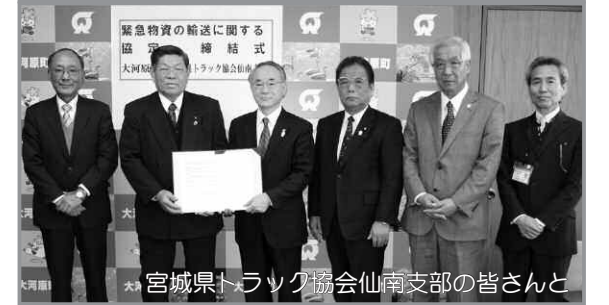
2月26日、役場応接室において、町とヤマト運輸株式会社との間で「災害時における緊急物資輸送及び緊急物資拠点の運営に関する協定」の締結式が行われました。

この協定では、大規模な災害が発生した場合に、町からヤマト運輸株式会社に対し救済物資の輸送の協力や物資拠点施設の運営を要請できることなどが定められています。これにより、全国からの支援の受け入れや避難者への物資供給がスムーズに行われることが期待されます。

さらに、2月27日には宮城県トラック協会仙南支部との間で「緊急物資の輸送に関する協定」の締結式が行われ、災害時の物資輸送体制が一段と強化されました。



ヤマト運輸株式会社の皆さんと



宮城県トラック協会仙南支部の皆さんと

期待と希望のこころませ

町内小・中学校で卒業式

3月に入り、町内の小・中学校でも旅立ちの季節を迎えました。このうち大河原中学校では3月8日に卒業式が行われ、全223人の卒業生に卒業証書が手渡されました。

今年の卒業生は、東日本大震災による混乱のなかでの小学校卒業を経験しています。穏やかな雰囲気でも迎えた今回の式典は、より思い出深いものとなったようです。

また、全員による記念合唱では、それぞれがこれから歩み始める進路に思いを巡らせながら、体育館いっぱいにか強い歌声を響かせていました。



▲3年間の思い出を胸に、一人ずつ卒業証書を受け取りました。

珍しいお雛さまも

「おおがわら佐藤屋 de 雛まつり」開催

町内の旧家に残る様々な雛人形を一堂に集めて展示する「おおがわら佐藤屋 de 雛まつり（主催：佐藤屋プロジェクト）」が、佐藤屋邸で3月1日から3日に開催されました。

会場には、江戸時代に作られたという「享保雛」や「古今雛」などの歴史のある雛人形や現代の華やかな雛人形などが展示され、きらびやかな雰囲気。訪れた皆さんは、現代でも色あせない雛人形の競艶に、思わず足を止めて見入っていたようです。



▲かつて西日本で広く流行していた「御殿雛」。こちらは明治中期に作られたものということです。

スポーツ☆ニュース (敬称略)

- 大河原町ミニバスケットボール新人大会 開催日 2月9日 会場 金ヶ瀬小学校体育館
- Aブロック 優勝 金ヶ瀬ニュースターズ Bブロック 優勝 S・Pファイターズ



元大河原町長 佐藤卓郎氏逝去

元大河原町長の佐藤卓郎氏(右写真)が、2月28日、急性循環不全のため亡くなりました。91歳でした。

佐藤氏は、宮城県職員として企画部長などを務め退職の後、昭和63年10月に町長に初当選し、その後平成16年10月までの4期16年にわたり、町長として町の発展と町民福祉の向上のため尽力しました。

この間、地道な町民との対話活動を政治姿勢の基本とし、土地区画整理事業により整備された土地の有効活用を中心とした県南の中心都市づくりに積極的に取り組まれました。

また、地域医療体制の確立と救急医療の充実を図るため、近隣市町との調整に努力されました。この構想は平成14年8月、みやぎ県南中核病院として結実し、現在も大河原町民はもとより、広く地域住民の生命維持と健康増進に大きな役割を果たしています。

平成18年4月には、これらの功績により、旭日小綬章が授与されました。安らかなお眠りをお祈りします。